



新成人「誓いの言葉」

新成人代表
澤田 晃誓さん

私は高校進学のために滋賀県に移りました。話を聞いてくれる親や友人たちと離れ、不安な寮生活が始まりました。集団生活で決まり事も多く、生活のリズムを作るのに苦労しました。慣れない環境下での部活と勉強の両立を考えると、さらに不安になりました。そんな時も、親と連絡を取るだけで気持ちが奮い立ち、頑張ろうと思えました。また、自分が悩んだ時、支えになったのは地元の友人でした。年に数回の帰省時に会う友人は一緒にいるだけで落ち着き、心安らぐ場所であり、何でも相談できる、かけがえのない存在です。親や友人の支えで高校を卒業できたのだと思います。

私は現在、大学に通うため大阪で一人暮らしをしています。一人暮らしは高校の寮生活で慣れているため、そこまで苦労していません。新しい友人もできました。高校、大学と環境が変わっても変わらないのが家族と地元の友人の温かさや信頼感です。この場に立つことができたのは、両親をはじめとする親族、お世話になった先生方、友人、地域の方々のおかげです。時には厳しく、時には優しく支え続けて下さり、本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

丹波市は空気が新鮮で、山・川がとても美しい町です。四季折々で違った顔を見せてくれる自然。そして、人の心もとても美しいということに気がきました。地域の人々が「いってらっしゃい、おかえり」と当たり前のように笑顔で見送り、迎えてくれる温かさ。市以外ではあまり見ることはありません。この温かい町で大きく成長できたことは、幸せであり、誇りです。丹波市で育ったものとして、さらに成長していきます。

私たちは、20歳という人生の大きな節目を迎えることができました。成人1年目の未熟者です。しかし、社会から様々な権利を与えられ、義務を果たさなければなりません。成人として責任と自覚ある行動をすることを誓います。

現在、就職して社会に貢献しているもの、進学して勉学に励んでいるもの、立場は違えど夢に向かって同じように努力をしています。これからも温かくご指導をいただきますようお願い申し上げます、新成人代表「誓いの言葉」とさせていただきます。

*紙面の都合上、一部割愛させていただきました。



①仲間たちと晴れ着姿で写真撮影②谷口市長から新成人に記念品が贈呈されました③真剣に聞き入る新成人④会場で見つけた双子の新成人⑤当日は雨。懐かしい友人に会うため軒下で待ちます（国空航第8033号 市民リポーター木下武さん撮影）⑥地域別に分かれて記念撮影



平成29年丹波市成人式 新成人おめでとう

晴れの門出を迎えた新成人731人（式出席者569人）が、大人の仲間入りを果たしました。新たな決意と自覚を胸に、大人として第一歩を踏み出します。

1月8日（日）に、平成29年丹波市成人式が行われ、華やかな振袖やスーツ、紋付き袴に身を包んだ新成人が、丹波の森公苑で新たな門出を迎えました。新成人たちは、久しぶりに顔を合わせた友人との会話や写真撮影を楽しみながら、旧交を温めました。

式典前には、ドローンを使用して会場付近の写真的撮影が行われました。会場に集まるドローンを見たことがなかった新成人たちは、興味深々の様子で観察していました。

式典において、谷口市長は「社会人として活躍されている方、学

校で勉学に励まれている方、それぞれに様々なことに挑戦してほしいと思います。都会に近い田舎として、地域の将来を担う若いみなさんを選んでもらえる市であるよう努めます。家族・友人との絆と感謝を大切に、自らの道を切り開いてください」と式辞を述べました。

終始笑顔に包まれた、温かな雰囲気の中で進められ、それぞれが描く未来に向かって、力強い一歩を踏み出しました。

将来の夢 聞かせてください。

晴れの門出を迎え、大人の仲間入りを果たした新成人のみなさん。そんな彼らに、将来の夢・抱負など新成人の今の想いを聞きました。



フォトコーナー

